

荒花

2009年(平成21年)6月12日(金曜日)

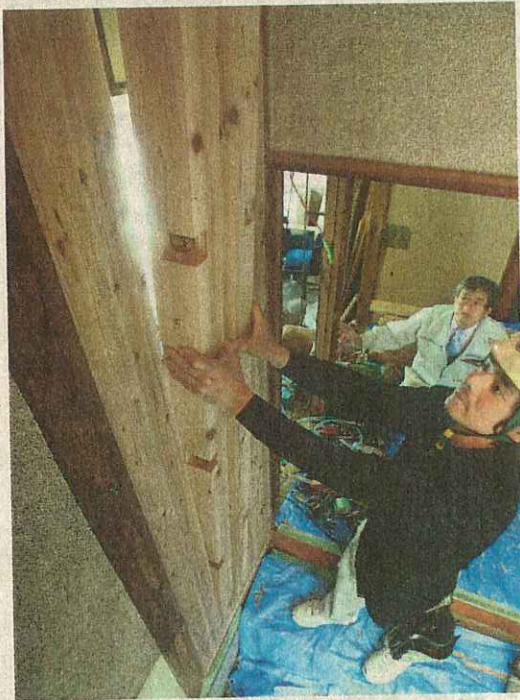
(第3種郵便物認可)

都市部の地震防災で最大の課題となっている木造住宅の耐震化を進めるため、スギの間伐材を利用した低コストの簡易な補強工法を大阪府木材連合会が京都大防災研究所の協力を得て開発し、12日、大阪市の空き家で施工の様子を公開した。

90度のスギ材を使用。柱と柱の間に何本もの角材を立てかけボルトでつなぎ合わせて壁を補強したり、耐震性のないふすまをはずして、代わりに角材をはめ込んで壁に変えたりする。壁が増強されることで、地震で揺らされても家が変形しにくくなり、防災研での実験では阪神大震災級の揺れでも倒壊しなかった。

一般的な耐震工事は、壁をはがして「筋交い」と呼ばれる斜めの木材を入れ直すなど大がかりになりがちだ。日本木造住宅耐震補強事業者協同組合の調査で

# 木造住宅 お安く耐震補強



老朽化した住宅で行われたスギ間伐材を用いた耐震補強(12日午前11時22分、大阪市此花区で) 一浜井孝幸撮影

## 大阪府木材連が開発

### 間伐材利用、工期も短縮

は、耐震工費は平均約130万円で、ほかに引越しや仮住まいの費用もかかる。

今回の工法は、家が多少損壊しても倒壊させないのがねらいで、費用は数十万円に抑えられるという。生活しながら工事でき、工期は数日で済むとしている。

自治体の耐震改修補助(大阪市の場合は50%)を受ければ、さらに負担は減る。開発に協力した河田恵昭・京都大名誉教授は「大規模な耐震化は多くの人にとって現実的ではなく、命を守る最低限の空間を確保できる補強策が大切だ」と話す。大阪府木材連合会は施工業者向けの説明会などを通じて普及を図る。